

当院では以下の研究を実施しております。

この研究は、通常の診療で得られた過去の記録を使って行われます。このような研究は、国が定めた指針に基づき、対象となる患者さまの一人ずつから直接同意を得るかわりに、研究の目的を含む研究の実施についての情報を公開することが必要とされています。研究結果は学会等で発表されることがありますが、その際も個人を特定する情報は公表いたしません。

3D Slicer および AI 支援定量リスク評価を用いた CT ガイド下生検およびドレナージの穿刺経路評価に関する後方視的研究

1. 研究の対象

2016 年 1 月（東芝病院を含む）～2026 年 7 月の間に、当院にて CT ガイド下経皮的生検・ドレナージを施行された方

2. 研究目的・方法

CT ガイド下の経皮的生検・ドレナージにおける穿刺経路の選択は、従来、術者の経験と画像上の目視評価に依存してきました。当科では、CT 画像から病変および周囲の危険臓器（気管、大血管、腸管、膀胱、尿管等）を 3 次元的にセグメンテーションし、皮膚穿刺点と病変内標的点の多数の組み合わせから穿刺経路の候補を網羅的に作成した上で、危険臓器への接触・近接度に基づく指標（複合リスクスコア）により各候補を評価する手法を開発しました。本研究では、この手法をすでに実施済みの症例に後方視的に適用し、実際に選択された穿刺経路が、シミュレーション上の候補群の中でどの程度安全側に位置していたかを評価することを目的としています。この研究は、2031 年 7 月 31 日までを予定しております。

3. 研究に用いる情報の種類

研究の方法は診療録（カルテ）および画像（CT）を用いた後方視的観察研究（レトロスペクティブ・スタディ）になります。実際に選択された穿刺経路に関する情報（手技記録、確認用 CT 画像）、および術前計画 CT 画像から作成したセグメンテーションデータを用い、シミュレーションで作成した候補経路群との比較評価を行います。また本研究で得られた知見やデータは、将来的に針の刺入経路を自動で計算する技術の高度化や、治療経過を予測するモデルの構築といった新たな研究へ活用される可能性があります。なお、これらの新たな研究を実施する際には、再度臨床研究倫理審査委員会の審査を受け、適切な承認を得た上で行います。

4. お問い合わせ先

本研究に関するご質問等がありましたら下記の連絡先までお問い合わせ下さい。

ご希望があれば、他の研究対象者の個人情報及び知的財産の保護に支障がない範囲内で、研究計画書及び関連資料を閲覧することが出来ますのでお申出下さい。

また、試料・情報が当該研究に用いられることについて患者さまもしくは患者さまの代理人の方にご了承いただけない場合には研究対象としませんので、下記の連絡先までお申出ください。その場合でも患者さまに不利益が生じることはありません。

照会先および研究への利用を拒否する場合の連絡先：

〒140-8522 東京都品川区東大井6丁目3-2 2

研究責任者 東京品川病院 放射線科 竹下 洋平（病院代表電話：03-3764-0511）

（2026 年 8 月 3 日作成）